

元気企業



星田 真一 社長

株式会社 エコノス・ ジャパン

取扱製品

パルス光殺菌装置、
過熱蒸気発生装置、
過熱蒸気式熱分解装置、
オゾン殺菌装置

資本金 3000万円

従業員数 13人

所在地 小笠郡菊川町吉沢

電話 0537(35)0667



「スーパースチーマ」で調理されたおいしい豚肉



写真は2点とも試験機によるテスト風景

短時間に殺菌できる
「パルスビーマー」

殺菌装置から多様な製品開発

「蒸^{せんこう}」気で、肉やパンを焼くなんて、想像もできないでし^{しょう}。星田真一社長はそう言いながら、トレーに乗せた食パンを、同社が開発した過熱蒸気式加工調理装置「スーパースチーマ」にセットした。1分足らずで出てきたパンは、むらなく小麦色に焼け芳しい香りが工場に漂った。

過熱蒸気とは、1気圧下で100度にしかならない飽和蒸気を、特殊技術で、1気圧のまま数100度まで上昇させた蒸気のこと。ほぼ無酸素状態のなかで、一気に加熱するため、水分やうま味を逃がさず短時間に加工できるという特徴がある。

大手家電メーカーが、最近家庭用を発売した。「わが社では、大量生産ができないので家庭用は無理。むしろ大手が家庭用を売り出してくれたおかげで、業務用も脚光を浴びるようになり、引き合いが増えた」と、星田社長は期待を込める。

同社は1994年の発足。産業用の殺菌と脱臭装置の開発からスタートした。画期的な製品の第一弾は、殺菌にパ

ルス光を利用した「パルスビーマー」。閃光の中を数秒くぐらせるだけで、菌類だけでなくカビ類まで除去できる。これまでの紫外線殺菌に比べ、殺菌時間が大幅に高速化され、瞬時に殺菌できる。生産ラインの高速化を目指す飲料水や食品メーカーの要請に応じて開発、同社が「ほぼオンリーワン」と胸を張る製品でもある。

食品加工用のスーパースチーマも、当初は耐熱性菌を殺菌する装置として開発した。その技術はさらに発展して、過熱蒸気を1,000度まであげ、ダイオキシンを出さず、鶏ふんや下水汚泥を乾燥・炭化する大型熱分解装置「ファイヤー・スチーマ」に結びついた。

同社の強みは、小規模企業らしい小回りのきく対応。ユーザーからの要請を的確につかみ、柔軟な発想で研究開発に取り組めることだ。

環境・衛生システムで幅広い独自製品を開発してきた同社だが、星田社長は「枝葉が育ったことはいいことだが、そろそろ絞り込み、熟成させなくてはいけない」と、体質強化にも意欲を見せている。

しずおか発



塩坂 邦雄 社長

株式会社 環境アセスメント センター

取扱製品

環境アセスメント、動植物・生態系、環境・防災地質、生活環境、生活環境などの調査、地域環境計画ほか
資本金 7980万円
従業員数 33人
所在地 静岡県清閑町
電話 054(255)3650



新分野で「地球修繕」にも挑戦

全国各地の地下貯水工事で活用される金属やプラスチック製のユニット

ビルの屋上に作り出された緑地

「**環**境アセスメントセンター」は公共機関でも団体でもない。正真正銘の民間会社だ。発足は1975年5月。その3年前に「各種公共事業にかかわる環境保全対策について」が閣議で了解されたばかり。環境アセスメント(環境影響評価)という言葉も、それほど一般的ではなかった。社名がすでに時代を先取りしていた。

建設省(当時)が本川根町に建設を計画していた長島ダムの環境影響調査を皮切りに、ゴルフ場建設ラッシュなどで、環境アセスメントの需要が急速に拡大。「地域の特性を重視した手作りのアセスメント」を貫き、技術力で信頼を勝ち取ってきた。

なかでも、動植物・生態系の調査で強さをみせる。本社の別棟に標本室があり、昆虫、動物、植物など、ざっと1万点の標本を所蔵。技術者が顕微鏡に向かって、現況調査で採取した昆虫の同定作業をすすめる姿は、大学の研究室を思わせる。全国11社と結んだネットワークも調査の幅を広げた。

「主力の環境アセスメントに加え、新たに地球修繕請負

業の看板を掲げたい」。塩坂邦雄社長は、2つのキーワードで新分野に挑戦した。

その1つが「水」。地域の水資源を保全して、雨水や地下水を有効活用するユニークな地下貯水システムを開発した。運動場や駐車場を掘削してゴムシートを敷き、その上にプラスチックや金属製のユニットを積み上げて埋め戻し、再び運動場や駐車場として使う。地下ではユニットのすき間に水がたまるという仕組み。コンクリート製に比べ工期が短く、工事費も安く、全国400カ所の施工実績を持つ。

もう1つは「緑」。地下貯水のユニット方式を応用した屋上緑化工法。プラスチック製のトレーに乾燥に強いベンケイソウ科の植物を植え、防水シートを敷いた屋上に、そのトレーを並べるだけ。施工が早く、低コストが特徴であるのは地下貯水と同じ。

「次の切り口は、環境教育」と、塩坂社長は力を込める。「環境を教える教師は多くないが、うちにはその技術者がいっぱいいる」。すでに樹木クイズや木の観察マナーをテーマにした冊子づくりで、具体化させている。